

対象校No. 331

注4

学校コード F107310101322

注3

設置年度

令和

8年度

計画の区分： 学部の設置

注1

届出

注2

医療創生大学 総合医療学部 理学療法学科

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正後大学設置基準適用)

学校法人 医療創生大学

令和8年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名

教務学生課

職名・氏名

シュニン エンドウクヤ
主任・遠藤拓哉

電話番号

0246-29-7136 (内線: 240)

(夜間)

0246-29-5111 (代)

e-mail

kyougaku@isu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称: ◇◇学科(令和◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・「〇〇短期大学 △△学科」
- ・「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(〇〇課程)」
- ・「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

4 対象校No.については、「【別紙】令和8年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

目次

総合医療学部

＜理学療法学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	15
4. 既設大学等の状況	16
5. 教育研究実施組織の状況	18
6. 附帯事項等に対する履行状況等	38
7. その他全般的事項	41

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人医療創生大学

(2) 大 学 名

医療創生大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒277-0803

千葉県柏市小青田1丁目3番地4号

(注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。

・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(シンタニ タカヨシ) 新谷 幸義 (平成31年4月)		
学 長	(シンタニ タカヨシ) 新谷 幸義 (令和2年4月)		
学 部 長	(フルカワ カツヒロ) 古川 勉寛 (平成29年4月)	(ゴウアーチェン) GOH AH CHENG (平成30年4月)	学部長の交代 令和8年4月1日 (8)
学科長等	(サイモン ヨシキ) 齋門 良紀 (平成31年4月)	(モミヤマ ヒデキ) 榎山 日出樹 (令和7年1月)	学科長の交代 令和8年4月1日 (8)

(注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を

()書きで記入してください。

(例) 令和7年度に報告する内容 → (7)

令和8年度に報告する内容 → (8)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注)・当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
 - ・様式は、令和3年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和8年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
 - ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の 名称（学位）	学位又は学科の 分野	設 置 時 の 計 画				学生募集の停止 について	備 考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
総合医療学部 理学療法学科 学士（理学療法）	保健衛生学関係（リハビリテーション関係）	4 年	55 人	2年次 0 人 3年次 0 人 4年次 0 人	220 人	—	

- (注)・定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）又は（その2の2））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 - ・学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「—」を選択。）

(5) ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		春季入学以外の 学期区分につい て	収容定員 充 足 率	収容定員 充 足 率 (控除後)	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	55 人 () []	人 () []	春季入学以外 の入学時期と 入学定員内訳	0.9	— 倍	
志願者数	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	99 人 () []	人 () []				
受験者数	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	99 人 () []	人 () []				
合格者数	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	89 人 () []	人 () []				
B 入学者数	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	50 人 () []	人 () []				
入学定員超過率 B/A	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.9	—				

- (注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「—」を記入してください。
 - ・（ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、（ ）書きとするなど、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・転入学生は記入しないでください。
 - ・[]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
 - ・「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳（予定を含む）を記載してください。（春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「—」を選択。）
 - ・「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和9年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 - ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。
 - ・「(5) ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) 一③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	50 [—] (—)	— [—] (—)	
2 年次			— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
3 年次					— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
4 年次							— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
計	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	50 [—] (—)	— [—] (—)	

- (注)・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、**内数で**記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、**内数で**記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和3年度	- 人	- 人	令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	- 人	- 人	令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
令和6年度	- 人	- 人	令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	- 人	- 人	
令和7年度	- 人	- 人	令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	- 人	- 人	
			令和7年度	- 人	- 人	
令和8年度	50 人	0 人	令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	- 人	- 人	
			令和7年度	- 人	- 人	
			令和8年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「修学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例) ・修学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\text{\#VALUE!}} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\text{\#VALUE!}} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\text{\#VALUE!}} = \boxed{-} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\text{\#VALUE!}} = \boxed{-} \%$$

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数(a)}}{\text{令和7年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\text{\#VALUE!}} = \boxed{-} \%$$

【令和8年度】

$$\frac{\text{令和8年度の退学者数(a)}}{\text{令和8年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{50} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<総合医療学部 理学療法学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	主 要 授 業 科 目	単位数			基幹教員等の配置						(外 部 の 教 員 を 要 す)
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
教 育 年 次 別	フレッシュヤーズセミナー	1前	○	2						2			
	小計(1 科目)	—	—	2	0	0	0	0	0	2	0	0	
語 学 科 目 群	日本語A	1前	○	1								1	
	日本語B	1後	○	1								1	
	英語A	1前・後	○	1								1	
	英語B	1前・後	○	1								1	
	医療英語	2後			2							2	
	小計(5 科目)	—	—	4	2	0	0	0	0	0	0	4	
教 養 科 目 群	スマートテクノロジー基礎	1前	○	2								1	
	メディカルテクノロジー基礎	1後	○	2								1	
	研究法基礎	1前			2		1					3	
	統計のしくみ1	1前			2							1	
	統計のしくみ2	1後			2							1	
	倫理	1前			2			1				2	
	歴史と文化	1前			2							1	
	文学の世界	1後			2							2	
	社会学入門	1前			2							1	
	災害からの復興	1前			2							3	
	ボランティア論	1前			2							1	
	暮らしのなかの憲法	1後			2							1	
	ジェンダー論	1後			2							1	
	健康の科学	1前			2							1	
	健康・スポーツ1	1前			1							1	
	健康・スポーツ2	1後			1							1	
	小計(16 科目)	—	—	4	26	0	1	1	0	0	0	14	
グ ロー バ ル 展 開 科 目	国際保健論	1前			2		1					2	
	グローバルヘルスケア	1後				2	1					2	
	ナショナルヘルスケア(先進医療)	1前			1							1	
	ナショナルヘルスケア(地域医療)	1前			1							1	
	小計(4 科目)	—	—	0	2	4	1	0	0	0	0	3	
連 携 科 目 群	健康と薬	1前			2							1	
	多職種連携とチーム医療	1後			1		1					2	
	心理学概論	1前			2							1	
	組織の中の人間-組織行動の心理学-	1後			2							1	
	モチベーションの心理学	1後			2							1	
	放射線と健康支援	1前			1							1	
	放射線と人体	1後			2							1	
	人間栄養学	1後			2							1	
	疫学	1後			2							1	
	看護学	1後			1							1	
	小計(10 科目)	—	—	0	17	0	1	0	0	0	0	9	

【令和8年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	主 要 授 業 科 目	単位数			基幹教員等の配置						(外 部 の 教 員 を 要 す の 助 手 を 除 く)
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
教 育 年 次 別	フレッシュャーズセミナー	1前	○	2						2			
	小計(1 科目)	—	—	2	0	0	0	0	0	2	0	0	
語 学 科 目 群	日本語A	1前	○	1								1	
	日本語B	1後	○	1								1	
	英語A	1前・後	○	1								1	
	英語B	1前・後	○	1								1	
	医療英語	2後			2							2	
	小計(5 科目)	—	—	4	2	0	0	0	0	0	0	5	
教 養 科 目 群	スマートテクノロジー基礎	1前	○	2								1	
	メディカルテクノロジー基礎	1後	○	2								1	
	研究法基礎	1前			2		1					3	
	統計のしくみ1	1前			2							1	
	統計のしくみ2	1後			2							1	
	倫理	1前			2			1				2	
	歴史と文化	1前			2							1	
	文学の世界	1後			2							1	
	社会学入門	1前			2							1	
	災害からの復興	1前			2				1			4	
	ボランティア論	1前			2							2	
	暮らしのなかの憲法	1後			2							1	
	ジェンダー論	1後			2							1	
	健康の科学	1前			2							1	
	健康・スポーツ1	1前			1							1	
	健康・スポーツ2	1後			1							1	
小計(16 科目)	—	—	4	26	0	1	1	1	1	0	0	16	
グ ロー バ ル 展 開 科 目	国際保健論	1前			2		1					2	
	グローバルヘルスケア	1後				2	1					2	
	ナショナルヘルスケア(先進医療)	3前			1							1	
	ナショナルヘルスケア(地域医療)	3前			1							1	
	小計(4 科目)	—	—	0	2	4	1	0	0	0	0	5	
連 携 科 目 群	健康と薬	1前			2							3	
	多職種連携とチーム医療	1後			1		1					5	
	心理学概論	1前			2							1	
	組織の中の人間-組織行動の心理学-	1前			2							1	
	モチベーションの心理学	1後			2							1	
	放射線と健康支援	1前			1							1	
	放射線と人体	1後			2							1	
	人間栄養学	1後			2							1	
	疫学	1後			2							1	
	看護学	1後			1							1	
小計(10 科目)	—	—	0	17	0	1	0	0	0	0	13		

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	主 要 授 業 科 目	単位数			基幹教員等の配置					外 の 教 員 （ 助 手 を 除 く）
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門教育科目（専門基礎科目）	人体の構造Ⅰ	1前	○	2					1	2		
	人体の構造Ⅱ	1前	○	2					1	2		
	人体の構造Ⅲ	1後	○	2				1		1		
	人体の構造Ⅳ	1後	○	2			2		1			2
	人体の構造演習	1後	○	1						2		
	人体の機能Ⅰ	1前	○	2				1				
	人体の機能Ⅱ	1後	○	2				1				
	人体の機能演習	2前	○	1				1		2		1
	運動学	1後	○	2			1		1	1		1
	運動学演習	2前	○	1			3		1			
	人間発達学	1後	○	2						1		
	病理学	2前	○	2			1	1	1			1
	薬理学	2後	○	2								1
	救急処置法	2後	○	2				2				
	神経内科学	2前	○	2								1
	整形外科科学	2前	○	2			1		1			
	小児科学	2後			2					2		
	精神医学	2前	○	2								1
	臨床心理学	3後	○	2								1
	内科学	2後	○	2								1
	公衆衛生学	2後			2							1
	高次脳機能障害学	3前			1					1		
	社会福祉学概論	1前	○	2								1
	チーム医療演習	3前	○	1				1	1			2
	リハビリテーション概論	1前	○	2								1
	小計（25 科目）	—	—	40	5		3	2	2	4		12

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	主 要 授 業 科 目	単位数			基幹教員等の配置					外 の 教 員 （ 助 手 を 除 く）
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門教育科目（専門基礎科目）	人体の構造Ⅰ	1前	○	2					1	3		
	人体の構造Ⅱ	1前	○	2					1	2		
	人体の構造Ⅲ	1後	○	2				1		1		
	人体の構造Ⅳ	1後	○	2			2		1	1		2
	人体の構造演習	1後	○	1						2		
	人体の機能Ⅰ	1前	○	2			1					
	人体の機能Ⅱ	1後	○	2			1					
	人体の機能演習	2前	○	1			1			2		1
	運動学	1後	○	2			1		1	2		1
	運動学演習	2前	○	1			3		1			
	人間発達学	1後	○	2						1		
	病理学	2前	○	2			1	1	1			1
	薬理学	2後	○	2								1
	救急処置法	2後	○	2			1	1				
	神経内科学	2前	○	2								1
	整形外科科学	2前	○	2			1		1			
	小児科学	2後			2					2		
	精神医学	2前	○	2								1
	臨床心理学	3後	○	2								1
	内科学	2後	○	2								1
	公衆衛生学	2後			2							2
	高次脳機能障害学	3前			1						1	
	社会福祉学概論	1前	○	2								2
	チーム医療演習	3前	○	1			1		1			2
	リハビリテーション概論	1前	○	2			2					
	小計（25 科目）	—	—	40	5	0	5	1	2	5	0	13

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	主 要 授 業 科 目	単位数			基幹教員等の配置					外 の 教 員 （ 助 手 を 除 く）	
					必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門教育科目（専門科目）	基礎 理 学 療 法 学	リスク管理論	3後			1			2				1	
		科学的根拠に基づく実践	2前	○	2			3						
		生物統計学	1前			2			1		1		1	
		卒業研究Ⅰ	3通	○	2			4	1	1				
		卒業研究Ⅱ	4通	○	2			4	1	1				
		理学療法学概論	1前	○	1			1						
	理 学 療 法 管 理	臨床教育と管理	2後	○	2				1	1				
		理学療法教育学と生涯学習	3前			2		1	1					
		理学療法教育学	3前			2		1	1					
	理 学 療 法 評 価 学	基礎理学療法評価学	2前	○	1			1		2				
		専門理学療法評価学	2前			1		1		2				
		関節運動測定演習	1後	○	2						2			
		感覚運動測定演習	2前	○	2							2		
		臨床推論演習	3前	○	1			1	1	1				
	理 学 療 法 治 療 学	運動療法学総論	2前	○	2				4					
		日常生活活動分析学演習	2後	○	1							2		
		運動器・スポーツ理学療法学Ⅰ	2後	○	2				3		1			
		運動器・スポーツ理学療法学Ⅱ	3後	○	1				3		1			
		神経機能理学療法学Ⅰ	2後	○	2					1	1	1		
		神経機能理学療法学Ⅱ	3後	○	1					1	1	1		
		内部障害理学療法学Ⅰ	3前	○	2					1				
		内部障害理学療法学Ⅱ	3後	○	1					1				
		発達と理学療法学Ⅰ	3前	○	2								1	
		発達と理学療法学Ⅱ	3後	○	1								1	
		物理療法Ⅰ	2後	○	1				4					
		物理療法Ⅱ	3前	○	2				3		1			
		義肢学演習	3前	○	1					1				
		装具学演習	2後	○	1							1		
		徒手理学療法学	3前	○	1				3		1		1	
		理学療法セミナーⅠ	4前	○	1					1	1	1		
		理学療法セミナーⅡ	4後	○	2					1	2	4		
	地 域 理 学 療 法	生活環境学	3前			2			1	1		1		
地域理学療法学		2後	○	2				1	1			1		
地域理学療法学演習		3前	○	1				1				1		
臨 床 実 習	見学実習	1後	○	1					1	1	2			
	地域包括ケアシステム実習	2後	○	2						1	2			
	評価学実習	3通	○	4				1	1	1	1			
	臨床能力演習	3通	○	2				1		1				
	臨床実習Ⅰ	3後	○	8				1		1	2			
	臨床実習Ⅱ	4前	○	8					1	1	1			
小計（ 40 科目）		—	—	67	10	0	4	2	2	4	0	2		
合計（ 101 科目）		—	—	117	62	4	4	2	2	4	0	32		
卒業要件及び履修方法														
（記入例） 必修科目24単位、専門基礎科目の選択科目から22単位、専門応用科目の選択科目から18単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：44単位（年間））														

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	主 要 授 業 科 目	単位数			基幹教員等の配置					（助手を除く） 外の教員
					必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門教育科目（専門科目）	基礎理 学療 法 学	リスク管理論	3後			1		1	1				1
		科学的根拠に基づく実践	2前	○	2				3				
		生物統計学	1前			2			1			1	1
		卒業研究Ⅰ	3通	○	2			4	1	1			
		卒業研究Ⅱ	4通	○	2			4	1	1			
		理学療法学概論	1前	○	1			2					
	理 学 療 法 管 理	臨床教育と管理	2後	○	2				1	1			
		理学療法教育学と生涯学習	3前			2		1	1				
		理学療法教育学	3前			2		1	1				
	理 学 療 法 評 価 学	基礎理学療法評価学	2前	○	1			1		2			
		専門理学療法評価学	2前			1		1		2			
		関節運動測定演習	1後	○	2						3		
		感覚運動測定演習	2前	○	2						2		
		臨床推論演習	3前	○	1			1	1	1			
		運動療法学総論	2前	○	2			4					
	理 学 療 法 治 療 学	日常生活活動分析学演習	2後	○	1							2	
		運動器・スポーツ理学療法学Ⅰ	2後	○	2			3		1			
		運動器・スポーツ理学療法学Ⅱ	3後	○	1			3		1			
		神経機能理学療法学Ⅰ	2後	○	2			1		1	1		
		神経機能理学療法学Ⅱ	3後	○	1			1		1	1		
		内部障害理学療法学Ⅰ	3前	○	2				1				
		内部障害理学療法学Ⅱ	3後	○	1				1				
		発達と理学療法学Ⅰ	3前	○	2							1	
		発達と理学療法学Ⅱ	3後	○	1							1	
		物理療法Ⅰ	2後	○	1			4					
		物理療法Ⅱ	3前	○	2			3		1			
		義肢学演習	3前	○	1			1					
		装具学演習	2後	○	1							1	
		徒手理学療法学	3前	○	1			3		1			
		理学療法セミナーⅠ	4前	○	1			1		1	1		
		理学療法セミナーⅡ	4後	○	2			1		2	4		
	地 域 理 学 療 法 学	生活環境学	3前			2		2				1	
地域理学療法学		2後	○	2			2				1		
地域理学療法学演習		3前	○	1			1				1		
臨 床 実 習	見学実習	1後	○	1			3	1	2	5			
	地域包括ケアシステム実習	2後	○	2					1	2			
	評価学実習	3通	○	4			1	1	1	1			
	臨床能力演習	3通	○	2			1		1				
	臨床実習Ⅰ	3後	○	8			1		1	2			
	臨床実習Ⅱ	4前	○	8			1		1	1			
小計（ 40 科目）		—	—	67	10	0	5	1	2	5	0	2	
合計（ 101 科目）		—	—	117	62	4	5	1	2	5	0	34	
卒業要件及び履修方法													
（記入例） 必修科目24単位，専門基礎科目の選択科目から22単位，専門応用科目の選択科目から18単位以上を修得し，124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：44単位（年間））													

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、改正後大学設置基準等(令和4年10月1日施行)の適用以前については、改正前様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・ 「基幹教員等の配置」欄は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等の配置」としてください。
- ・ 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」としてください。
- ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の授業科目全て(基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)以外の教員(助手を除く)(改正後大学設置基準等の適用以前は兼任、兼任教員)が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準等(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、「認可時又は届出時」の「主要授業科目」欄は削除し、「基幹教員等の配置」欄は「専任教員等の配置」、「基幹教員以外の教員(助手を除く)」欄は「兼任・兼担」としてください。その上で、各年度については、「基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)」数は、認可時又は届出時の「専任教員」数との比較において変更となっている箇所、「基幹教員以外の教員(助手を除く)(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員以外の教員(助手を除く)」)」数は、認可時又は届出時の「兼任・兼担」数との比較において変更となっている箇所を太字の赤字としてください。
(専任教員から基幹教員に変更したことをもって太字の赤字とする必要はありません。)
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・ 不要な年度(令和7年度開設であれば令和6年度以前)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。
その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。
新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。
(例:記載順)【認可時又は届出時】→【令和8年度(新)】→【令和7年度(新)】→【令和6年度】→【令和5年度】→【令和8年度(旧)】→【令和7年度(旧)】

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和8年度】

・担当教員変更の理由により、「文学の世界」の兼任・兼任の配置を「2」から「1」に変更。
 ・教員就任辞退の理由により、「災害からの復興」の基幹教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。兼任・兼任の配置を「3」から「4」に変更。
 ・教員就任辞退の理由により、「ボランティア論」の兼任・兼任の配置を「1」から「2」に変更。
 ・教育環境充実の理由により、「ナショナルヘルスケア(先進医療)」の配当年次を「1前」から「3前」に変更。
 ・教育環境充実の理由により、「ナショナルヘルスケア(地域医療)」の配当年次を「1前」から「3前」に変更。
 ・教育環境充実の理由により、「健康と薬」の兼任・兼任の配置を「1」から「3」に変更。
 ・教育環境充実の理由により、「多職種連携とチーム医療」の兼任・兼任の配置を「2」から「5」に変更。
 ・教育環境充実の理由により、「組織の中の人間-組織行動の心理学-」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
 ・教育環境充実の理由により、「人体の構造Ⅰ」の基幹教員等の配置を「助教2」から「助教3」に変更。
 ・教育環境充実の理由により、「人体の構造Ⅳ」の基幹教員等の配置を「助教0」から「助教1」に変更。
 ・教員昇格の理由により、「人体の機能Ⅰ」の基幹教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。「准教授1」から「准教授0」に変更。
 ・教員昇格の理由により、「人体の機能Ⅱ」の基幹教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。「准教授1」から「准教授0」に変更。
 ・教員昇格の理由により、「人体の機能演習」の基幹教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。「准教授1」から「准教授0」に変更。
 ・教育環境充実の理由により、「運動学」の基幹教員等の配置を「助教1」から「助教2」に変更。
 ・教員昇格の理由により、「救急処置法」の基幹教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。「准教授2」から「准教授1」に変更。
 ・教員昇格の理由により、「チーム医療演習」の基幹教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。「准教授1」から「准教授0」に変更。
 ・教育環境充実の理由により、「リハビリテーション概論」の基幹教員等の配置を「教授0」から「教授2」に変更。兼任・兼任の配置を「1」から「0」に変更。
 ・教員昇格の理由により、「リスク管理論」の基幹教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。「准教授2」から「准教授1」に変更。
 ・教員昇格の理由により、「生物統計学」の基幹教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。「准教授1」から「准教授0」に変更。
 ・教員昇格の理由により、「理学療法概論」の基幹教員等の配置を「教授1」から「教授2」に変更。
 ・教育環境充実の理由により、「関節運動測定演習」の基幹教員等の配置を「助教2」から「助教3」に変更。
 ・教員昇格の理由により、「神経機能理学療法Ⅰ」の基幹教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。「准教授1」から「准教授0」に変更。
 ・教員昇格の理由により、「神経機能理学療法Ⅱ」の基幹教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。「准教授1」から「准教授0」に変更。
 ・教員昇格の理由により、「義肢学演習」の基幹教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。「准教授1」から「准教授0」に変更。
 ・教員昇格の理由により、「理学療法セミナーⅠ」の基幹教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。「准教授1」から「准教授0」に変更。
 ・教員昇格の理由により、「理学療法セミナーⅡ」の基幹教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。「准教授1」から「准教授0」に変更。
 ・教員昇格の理由により、「生活環境学」の基幹教員等の配置を「教授1」から「教授2」に変更。「准教授1」から「准教授0」に変更。
 ・教員昇格の理由により、「地域理学療法学」の基幹教員等の配置を「教授1」から「教授2」に変更。「准教授1」から「准教授0」に変更。
 ・教員昇格および教育環境充実の理由により、「見学実習」の基幹教員等の配置を「教授0」から「教授3」に変更。「講師1」から「講師2」に変更。「助教2」から「助教5」に変更。
 ・教員昇格の理由により、「臨床実習Ⅱ」の基幹教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。「准教授1」から「准教授0」に変更。

(注)・ 2 (1) -① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、基幹教員等の配置の変更、

主要授業科目の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。

変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。また、改正後大学設置基準（令和4年10月1日施行）の適用により、専任教員から基幹教員に変更した場合（例：「専任教員 教授1」から「基幹教員 教授1」に変更）や、兼任・兼任教員から基幹教員以外の教員に変更した場合（例：「兼任教員1」から「基幹教員以外の教員1」に変更）については、記入しないでください。
- ・ 不要な年度（令和7年度開設であれば令和6年度以前）の表は適宜削除してください。
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（A）	必修	選択	自由	計	
63 科目	35 科目	3 科目	101 科目	63 科目 [0]	35 科目 [0]	3 科目 [0]	101 科目 [0]	

- (注)・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1 科目減の場合：△ 1）
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

(注)・配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

(注)・設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
- ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

(注)・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{0}{101} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第 3 位を切り捨て、小数点以下第 2 位まで表示されます。

- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 借用面積：8,535.71㎡ 借用期間：29年 医療創生大学歯科衛生専 門学校と共用 (収容定員240人) (地方公共団体等が規定 する面積基準なし)		
	校 舎 敷 地	151,587.44㎡	44.88㎡	924.31㎡	152,556.63㎡			
	そ の 他	310,592.17㎡	5,309.91㎡	㎡	315,902.08㎡			
	合 計	462,179.61㎡	5,354.79㎡	924.31㎡	468,458.71㎡			
(2)校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 借用面積： 1,278.85㎡ 借用期間：29年		
		53,500.33㎡ (53,500.33 ㎡)	㎡ (㎡)	㎡ (㎡)	53,500.33㎡ (53,500.33 ㎡)			
(3)教室・教員研究室		教 室	72室	教員研究室	165室	大学全体		
(4)図書・設備	新設学部等 の名称	図 書	学術雑誌		機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 図書：285,263冊 -〔60,195冊〕- 286,200冊〔60,236冊〕 (うち電子書籍：364点) 学術雑誌：1,480種-〔515 種〕- 1,472種〔502種〕 ※共用分のうち、学科間 で共有する分類が多くあ る為、合計(実数)は下 記の通り 図書：59,773冊-〔6,057 冊〕- 60,097冊〔6,057冊〕 (うち電子書籍：345点 〔0点〕) 学術雑誌：503種〔203 種〕 ※R7年度修正分 図書：→R7年に新規受入 を行った為。 学術雑誌：→除籍および 寄贈雑誌の新規受入を 行った為	
		〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕 冊	〔うち外国書〕 種				電子ジャーナル 〔うち外国書〕 冊
	総合医療学部	49,445〔4,571〕	345〔 0 〕	310〔 95 〕	0〔 0 〕	283		46
	理学療法学科	(49,445〔4,571〕) (49,731〔4,571〕)	(345〔 0 〕)	(310〔 95 〕)	(0〔 0 〕)	(283)		(46)
	総合医療学部	54,766〔5,767〕	342〔 0 〕	483〔 198 〕	0〔 0 〕	725		19
	看護学科	(54,766〔5,767〕) (55,084〔5,767〕)	(342〔 0 〕)	(483〔 198 〕)	(0〔 0 〕)	(725)		(19)
	総合医療学部	10,747〔1,032〕	20〔 0 〕	55〔 31 〕	0〔 0 〕	217		0
	心理学科	(10,747〔1,032〕) (10,815〔1,032〕)	(20〔 0 〕)	(55〔 31 〕)	(0〔 0 〕)	(217)		0
総合医療学部	49,445〔4,571〕	345〔 0 〕	310〔 95 〕	0〔 0 〕	202	31		
作業療法学科	(49,445〔4,571〕) (49,731〔4,571〕)	(345〔 0 〕)	(310〔 95 〕)	(0〔 0 〕)	(202)	(31)		
計	164,403〔15,941〕 (164,403〔15,941〕) (165,361〔15,941〕)	1,052〔 0 〕 (1,052〔 0 〕)	1,158〔 419 〕 (1,158〔 419 〕)	0〔 0 〕 (0〔 0 〕)	1,427 (1,427)	96 (96)		
(5)スポーツ施設等		スポーツ施設		講堂		厚生補導施設		
		5,090.13㎡		4,111㎡		4,663㎡		
(6)経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員 1 人当り研究費等	100千円	100千円	図書購入費	16,180千円	16,100千円	16,100千円
		共 同 研 究 費 等	2,000千円	2,000千円	設備購入費	千円	千円	千円
	学生 1 人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	
		1,560 千円	1,740 千円	1,740 千円	1,740 千円	— 千円	— 千円	総合医療学部 理学療法学科
		1,560 千円	1,540 千円	1,540 千円	1,540 千円	— 千円	— 千円	総合医療学部 看護学科
		1,200 千円	1,100 千円	1,100 千円	1,100 千円	— 千円	— 千円	総合医療学部 心理学科
		1,560 千円	1,740 千円	1,740 千円	1,740 千円	— 千円	— 千円	総合医療学部 作業療法学科
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、私立大学等経常費補助金 等						

- (注)・設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)又は(その1の3)に準じて作成してください。
(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA C対象学部等の数値を記入してください。)
- ・「(4)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(8)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・校舎等建物の計画の変更(校舎の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・高等専門学校については「(3)教室・教員研究室」欄の「教員研究室」は記載不要です。
 - ・国立大学については「(6)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学 の 名 称	医療創生 大 学									収容定員充足率0.7倍以下の学科数	2	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	定員変更 年度 (AC期間 の学科のみ)	開設 年度	所在地	備 考		
薬学部	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度				
薬学科	6	40	0	350	-	0.56	-	-	平成19	-			
	6	40	0	350	学士 (薬学)	0.56	-	-	平成19	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	令和9年度より学生募集停止		
看護学部	4	-	-	215	-	-	-	-	平成29	-			
看護学科	4	-	-	215	学士 (看護学)	-	-	-	平成29	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	令和8年度より学生募集停止		
健康医療科学部	4	-	-	275	-	-	-	-	平成31	-			
作業療法学科	4	-	-	100	学士 (作業療法学)	-	-	-	平成31	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	令和8年度より学生募集停止		
理学療法学科	4	-	-	175	学士 (理学療法学)	-	-	-	平成31	同上	令和8年度より学生募集停止		
心理学部	4	-	-	160	-	-	-	-	令和2	-			
臨床心理学科	4	-	-	160	学士 (心理学)	-	-	-	令和2	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	令和8年度より学生募集停止		
国際看護学部	4	80	-	320	-	0.93	-	-	令和3	-			
看護学科	4	80	-	320	学士 (看護学)	0.93	-	-	令和3	千葉県柏市小青田1-3-4			
総合医療学部	4	170	-	680	-	0.91	-	-	令和8	-			
理学療法学科	4	55	-	220	学士 (理学療法学)	0.91	-	-	令和8	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1			
看護学科	4	55	-	220	学士 (看護学)	0.98	-	-	令和8	同上			
心理学科	4	40	-	160	学士 (心理学)	0.90	-	-	令和8	同上			
作業療法学科	4	20	-	80	学士 (作業療法学)	0.70	-	-	令和8	同上			
大学全体	-	290	-	2000	-	-	-	-	-	-			

- (注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）
- なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
- ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「入学定員超過率」及び「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「－」とした上で、「非表示」設定としてください。
 - ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度 A C の対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和9年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「－」としてください。
 - ・「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
また、0.7倍以下又は1.15倍以上の**学科**については、**必ず太字にしてください**。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
 - ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。
- 詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5 教育研究実施組織の状況

<総合医療学部 理学療法学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
基 (主 専)	教授	古川 勉寛 (41) <令和8年4月> 博士(工学)
		<u>卒業研究Ⅰ</u>
		<u>卒業研究Ⅱ</u>
		<u>理学療法学概論</u>
		理学療法教育学と生涯学習
		理学療法教育学
		<u>基礎理学療法評価学</u>
		専門理学療法評価学
		<u>運動療法学総論</u>
		<u>物理療法Ⅰ</u>

【令和8年度】

教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
基 (主 専)	教授	古川 勉寛 (41) <令和8年4月> 博士(工学)
		<u>卒業研究Ⅰ</u>
		<u>卒業研究Ⅱ</u>
		<u>理学療法学概論</u>
		理学療法教育学と生涯学習
		理学療法教育学
		<u>基礎理学療法評価学</u>
		専門理学療法評価学
		<u>運動療法学総論</u>
		<u>物理療法Ⅰ</u> <u>リハビリテーション概論</u>

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
基 (主 専)	教授	齋門 良紀 (40) ＜令和8年4月＞ 博士（保健学）	基 (主 専)	教授	齋門 良紀 (40) ＜令和8年4月＞ 博士（保健学）
		研究法基礎			研究法基礎
		多職種連携とチーム医療			多職種連携とチーム医療
		人体の構造Ⅳ			人体の構造Ⅳ
		運動学			運動学
		運動学演習			運動学演習
		病理学			病理学
		整形外科学			整形外科学
		科学的根拠に基づく実践			科学的根拠に基づく実践
		卒業研究Ⅰ			卒業研究Ⅰ
		卒業研究Ⅱ			卒業研究Ⅱ
		運動療法学総論			運動療法学総論
		運動器・スポーツ理学療法学Ⅰ			運動器・スポーツ理学療法学Ⅰ
		運動器・スポーツ理学療法学Ⅱ			運動器・スポーツ理学療法学Ⅱ
		物理療法Ⅰ			物理療法Ⅰ
		物理療法Ⅱ			物理療法Ⅱ
		徒手理学療法学			徒手理学療法学
		評価学実習			評価学実習
		臨床能力演習			臨床能力演習
					見学実習

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
基 （主 専）	教授	阿部 裕一 (52) ＜令和8年4月＞ 博士（保健学）
		国際保健論 グローバルヘルスケア 人体の構造Ⅳ 運動学演習 科学的根拠に基づく実践 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 運動療法学総論 運動器・スポーツ理学療法学Ⅰ 運動器・スポーツ理学療法学Ⅱ 物理療法Ⅰ 物理療法Ⅱ 徒手理学療法学 生活環境学 地域理学療法学 地域理学療法学演習 臨床実習Ⅰ
基 （主 専）	教授	GOH AH CHENG (67) ＜令和8年4月＞ Doctor of Philosophy（豪州）
		運動学演習 科学的根拠に基づく実践 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 臨床推論演習 運動療法学総論 運動器・スポーツ理学療法学Ⅰ 運動器・スポーツ理学療法学Ⅱ 物理療法Ⅰ 物理療法Ⅱ 徒手理学療法学

教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
基 （主 専）	教授	阿部 裕一 (52) ＜令和8年4月＞ 博士（保健学）
		国際保健論 グローバルヘルスケア 人体の構造Ⅳ 運動学演習 科学的根拠に基づく実践 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 運動療法学総論 運動器・スポーツ理学療法学Ⅰ 運動器・スポーツ理学療法学Ⅱ 物理療法Ⅰ 物理療法Ⅱ 徒手理学療法学 生活環境学 地域理学療法学 地域理学療法学演習 臨床実習Ⅰ 見学実習 リハビリテーション概論
基 （主 専）	教授	GOH AH CHENG (67) ＜令和8年4月＞ Doctor of Philosophy（豪州）
		運動学演習 科学的根拠に基づく実践 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 臨床推論演習 運動療法学総論 運動器・スポーツ理学療法学Ⅰ 運動器・スポーツ理学療法学Ⅱ 物理療法Ⅰ 物理療法Ⅱ 徒手理学療法学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
基 (主 専)	准教 授	小林 大介 (48) ＜令和8年4月＞ 博士（障害科学）
		倫理 人体の構造Ⅲ 病理学 救急処置法 リスク管理論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 臨床教育と管理 理学療法教育学と生涯学習 理学療法教育学 臨床推論演習 内部障害理学療法学Ⅰ 内部障害理学療法学Ⅱ 評価学実習
基 (主 専)	准教 授	靱山 日出樹 (59) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）
		人体の機能Ⅰ 人体の機能Ⅱ 人体の機能演習 救急処置法 チーム医療演習 リスク管理論 生物統計学 神経機能理学療法学Ⅰ 神経機能理学療法学Ⅱ 義肢学演習 理学療法セミナーⅠ 理学療法セミナーⅡ 生活環境学 地域理学療法学 見学実習 臨床実習Ⅱ

教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
基 (主 専)	准教 授	小林 大介 (48) ＜令和8年4月＞ 博士（障害科学）
		倫理 人体の構造Ⅲ 病理学 救急処置法 リスク管理論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 臨床教育と管理 理学療法教育学と生涯学習 理学療法教育学 臨床推論演習 内部障害理学療法学Ⅰ 内部障害理学療法学Ⅱ 評価学実習 見学実習
基 (主 専)	教授	靱山 日出樹 (59) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）
		人体の機能Ⅰ 人体の機能Ⅱ 人体の機能演習 救急処置法 チーム医療演習 リスク管理論 生物統計学 神経機能理学療法学Ⅰ 神経機能理学療法学Ⅱ 義肢学演習 理学療法セミナーⅠ 理学療法セミナーⅡ 生活環境学 地域理学療法学 見学実習 臨床実習Ⅱ 理学療法学概論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
基 (主 専)	講師	今野 裕樹 (50) ＜令和8年4月＞ 修士（物理工学）
		<u>人体の構造Ⅰ</u>
		<u>人体の構造Ⅳ</u>
		<u>運動学</u>
		<u>運動学演習</u>
		<u>整形外科学</u>
		<u>チーム医療演習</u>
		<u>臨床教育と管理</u>
		<u>基礎理学療法評価学</u>
		<u>専門理学療法評価学</u>
		<u>運動器・スポーツ理学療法学Ⅰ</u>
		<u>運動器・スポーツ理学療法学Ⅱ</u>
		<u>物理療法Ⅱ</u>
		<u>徒手理学療法学</u>
		<u>理学療法セミナーⅡ</u>
		<u>見学実習</u>
		<u>評価学実習</u>
		<u>臨床能力演習</u>
		<u>臨床実習Ⅰ</u>

教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
基 (主 専)	講師	今野 裕樹 (50) ＜令和8年4月＞ 修士（物理工学）
		<u>人体の構造Ⅰ</u>
		<u>人体の構造Ⅳ</u>
		<u>運動学</u>
		<u>運動学演習</u>
		<u>整形外科学</u>
		<u>チーム医療演習</u>
		<u>臨床教育と管理</u>
		<u>基礎理学療法評価学</u>
		<u>専門理学療法評価学</u>
		<u>運動器・スポーツ理学療法学Ⅰ</u>
		<u>運動器・スポーツ理学療法学Ⅱ</u>
		<u>物理療法Ⅱ</u>
		<u>徒手理学療法学</u>
		<u>理学療法セミナーⅡ</u>
		<u>見学実習</u>
		<u>評価学実習</u>
		<u>臨床能力演習</u>
		<u>臨床実習Ⅰ</u>
		災害からの復興

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
基 (主 専)	講師	佐藤 惇史 (40) ＜令和8年4月＞ 博士（理工学）
		<u>人体の構造Ⅱ</u> <u>病理学</u> <u>卒業研究Ⅰ</u> <u>卒業研究Ⅱ</u> <u>基礎理学療法評価学</u> <u>専門理学療法評価学</u> <u>臨床推論演習</u> <u>神経機能理学療法学Ⅰ</u> <u>神経機能理学療法学Ⅱ</u> <u>理学療法セミナーⅠ</u> <u>理学療法セミナーⅡ</u> <u>地域包括ケアシステム実習</u> <u>臨床実習Ⅱ</u>
基 (主 専)	助教	小林 佳雄 (39) ＜令和8年4月＞ 博士（教育学）
		<u>フレッシューズセミナー</u> <u>人体の構造Ⅱ</u> <u>人間発達学</u> <u>小児科学</u> <u>高次脳機能障害学</u> <u>発達と理学療法学Ⅰ</u> <u>発達と理学療法学Ⅱ</u> <u>理学療法セミナーⅡ</u> <u>地域包括ケアシステム実習</u>

教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
基 (主 専)	講師	佐藤 惇史 (41) ＜令和8年4月＞ 博士（理工学）
		<u>人体の構造Ⅱ</u> <u>病理学</u> <u>卒業研究Ⅰ</u> <u>卒業研究Ⅱ</u> <u>基礎理学療法評価学</u> <u>専門理学療法評価学</u> <u>臨床推論演習</u> <u>神経機能理学療法学Ⅰ</u> <u>神経機能理学療法学Ⅱ</u> <u>理学療法セミナーⅠ</u> <u>理学療法セミナーⅡ</u> <u>地域包括ケアシステム実習</u> <u>臨床実習Ⅱ</u> <u>見学実習</u>
基 (主 専)	助教	小林 佳雄 (40) ＜令和8年4月＞ 博士（教育学）
		<u>フレッシューズセミナー</u> <u>人体の構造Ⅱ</u> <u>人間発達学</u> <u>小児科学</u> <u>高次脳機能障害学</u> <u>発達と理学療法学Ⅰ</u> <u>発達と理学療法学Ⅱ</u> <u>理学療法セミナーⅡ</u> <u>地域包括ケアシステム実習</u> <u>見学実習</u>

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
基 （主 専）	助教	武田 裕吾 (33) ＜令和8年4月＞ 修士（物理工学）
		<u>人体の構造Ⅰ</u> 小児科学 <u>関節運動測定演習</u> <u>感覚運動測定演習</u> <u>日常生活活動分析学演習</u> <u>理学療法セミナーⅠ</u> <u>理学療法セミナーⅡ</u> 生活環境学 <u>地域理学療法学</u> <u>地域理学療法学演習</u> <u>臨床実習Ⅰ</u> <u>臨床実習Ⅱ</u>
基 （主 専）	助教	則松 貢輔 (37) ＜令和8年4月＞ 博士（保健学）
		<u>フレッシューズセミナー</u> <u>人体の構造演習</u> <u>人体の機能演習</u> <u>感覚運動測定演習</u> <u>日常生活活動分析学演習</u> <u>装具学演習</u> <u>理学療法セミナーⅡ</u> <u>見学実習</u> <u>地域包括ケアシステム実習</u>

教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
基 （主 専）	助教	武田 裕吾 (33) ＜令和8年4月＞ 修士（物理工学）
		<u>人体の構造Ⅰ</u> 小児科学 <u>関節運動測定演習</u> <u>感覚運動測定演習</u> <u>日常生活活動分析学演習</u> <u>理学療法セミナーⅠ</u> <u>理学療法セミナーⅡ</u> 生活環境学 <u>地域理学療法学</u> <u>地域理学療法学演習</u> <u>臨床実習Ⅰ</u> <u>臨床実習Ⅱ</u> 見学実習
基 （主 専）	助教	則松 貢輔 (37) ＜令和8年4月＞ 博士（保健学）
		<u>フレッシューズセミナー</u> <u>人体の構造演習</u> <u>人体の機能演習</u> <u>感覚運動測定演習</u> <u>日常生活活動分析学演習</u> <u>装具学演習</u> <u>理学療法セミナーⅡ</u> <u>見学実習</u> <u>地域包括ケアシステム実習</u>

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
基 (主 専)	助教	堀 雅隆 (31) ＜令和8年4月＞ 博士（障害科学）
		<u>人体の構造Ⅰ</u> <u>人体の構造Ⅱ</u> <u>人体の構造Ⅲ</u> <u>人体の構造演習</u> <u>人体の機能演習</u> <u>運動学</u> <u>生物統計学</u> <u>関節運動測定演習</u> <u>神経機能理学療法学Ⅰ</u> <u>神経機能理学療法学Ⅱ</u> <u>理学療法セミナーⅡ</u> <u>見学実習</u> <u>評価学実習</u> <u>臨床実習Ⅰ</u>

教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
基 (主 専)	助教	堀 雅隆 (31) ＜令和8年4月＞ 博士（障害科学）
		<u>人体の構造Ⅰ</u> <u>人体の構造Ⅱ</u> <u>人体の構造Ⅲ</u> <u>人体の構造演習</u> <u>人体の機能演習</u> <u>運動学</u> <u>生物統計学</u> <u>関節運動測定演習</u> <u>神経機能理学療法学Ⅰ</u> <u>神経機能理学療法学Ⅱ</u> <u>理学療法セミナーⅡ</u> <u>見学実習</u> <u>評価学実習</u> <u>臨床実習Ⅰ</u>
基 (主 専)	助教	中辻 晋太郎 (38) ＜令和7年4月＞ 博士（保健学）
		<u>人体の構造Ⅰ</u> <u>人体の構造Ⅳ</u> <u>運動学</u> <u>関節運動測定演習</u> <u>見学実習</u>

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
その他	教授	水野 高昌 (57) ＜令和8年4月＞ 博士（保健医療学）
		倫理 精神医学
その他	教授	小池 久恵 (67) ＜令和8年4月＞ 文学修士※
		英語A 医療英語 文学の世界
その他	教授	田島 明子 (56) ＜令和8年4月＞ 博士（学術）
		研究法基礎 人体の構造Ⅳ 運動学
その他	教授	猪狩 もとみ (67) ＜令和8年4月＞ 学術修士※
		リスク管理論
その他	教授	長谷川 幹子 (55) ＜令和8年4月＞ 博士（看護学）
		倫理
その他	教授	後藤 恭一 (62) ＜令和8年4月＞ 博士（看護学）
		研究法基礎 疫学 公衆衛生学

教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
その他	教授	水野 高昌 (58) ＜令和8年4月＞ 博士（保健医療学）
		倫理 精神医学
その他	教授	田島 明子 (56) ＜令和8年4月＞ 博士（学術）
		研究法基礎 人体の構造Ⅳ 運動学 ジェンダー論
その他	教授	猪狩 もとみ (67) ＜令和8年4月＞ 学術修士※
		リスク管理論 災害からの復興
その他	教授	長谷川 幹子 (56) ＜令和8年4月＞ 博士（看護学）
		倫理
その他	教授	後藤 恭一 (62) ＜令和8年4月＞ 博士（看護学）
		研究法基礎 疫学 公衆衛生学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
その他	教授	柴野 健 (59) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）
		ナショナルヘルスケア（先進医療） 放射線と健康支援
その他	教授	吉田 和樹 (39) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）
		国際保健論 グローバルヘルスケア ナショナルヘルスケア（地域医療）
その他	教授	中尾 剛 (58) ＜令和8年4月＞ 博士（工学）
		スマートテクノロジー基礎 メディカルテクノロジー基礎
その他	教授	鎌田 真理子 (66) ＜令和8年4月＞ 社会学修士
		災害からの復興 ボランティア論 ジェンダー論 社会福祉学概論
その他	教授	大島 典子 (58) ＜令和8年4月＞ 修士（人間科学）
		臨床心理学

教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
その他	教授	柴野 健 (59) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）
		ナショナルヘルスケア（先進医療） 放射線と健康支援 多職種連携とチーム医療
その他	教授	中尾 剛 (58) ＜令和8年4月＞ 博士（工学）
		スマートテクノロジー基礎 メディカルテクノロジー基礎

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
その他	教授	山本 佳子 (68) ＜令和8年4月＞ 博士（文学）
		災害からの復興
その他	教授	野原 幸男 (56) ＜令和8年4月＞ 博士（薬学）
		災害からの復興 健康と薬 人間栄養学 薬理学
その他	准教授	藤本 聡 (64) ＜令和8年4月＞ 医学博士
		人体の機能演習 チーム医療演習

教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
その他	教授	山本 佳子 (68) ＜令和8年4月＞ 博士（文学）
		災害からの復興 多職種連携とチーム医療
その他	教授	野原 幸男 (56) ＜令和8年4月＞ 博士（薬学）
		災害からの復興 健康と薬 人間栄養学 薬理学
その他	教授	坂本 直道 (56) ＜令和8年4月＞ 博士（工学）
		ボランティア論
その他	教授	藤本 聡 (64) ＜令和8年4月＞ 医学博士
		人体の機能演習 チーム医療演習

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
その他	准教授	野崎 裕之 (41) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）
		多職種連携とチーム医療 看護学
その他	准教授	富岡 節子 (69) ＜令和8年4月＞ 博士（薬学）
		人間栄養学
その他	准教授	水木 理恵 (53) ＜令和8年4月＞ 博士（文学）
		国際保健論 グローバルヘルスケア
その他	准教授	高島 翠 (47) ＜令和8年4月＞ 博士（心理学）
		心理学概論
その他	准教授	名取 洋典 (49) ＜令和8年4月＞ 博士（教育学）
		モチベーションの心理学
その他	講師	嶋田 隆一 (38) ＜令和8年4月＞ 修士（作業療法学）
		人体の構造Ⅳ

教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
その他	准教授	永田 隆之 (53) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）
		健康と薬 多職種連携とチーム医療
その他	准教授	野崎 裕之 (41) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）
		多職種連携とチーム医療 看護学 ナショナルヘルスケア（地域医療）
その他	准教授	稲毛 映子 (59) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）
		災害からの復興
その他	准教授	富岡 節子 (69) ＜令和8年4月＞ 博士（薬学）
		人間栄養学
その他	准教授	水木 理恵 (53) ＜令和8年4月＞ 博士（文学）
		国際保健論 グローバルヘルスケア
その他	准教授	高島 翠 (47) ＜令和8年4月＞ 博士（心理学）
		心理学概論
その他	准教授	名取 洋典 (49) ＜令和8年4月＞ 博士（教育学）
		モチベーションの心理学
その他	講師	嶋田 隆一 (38) ＜令和8年4月＞ 修士（作業療法学）
		人体の構造Ⅳ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
その他	講師	春山 佳代 (46) ＜令和8年4月＞ 博士（医科学）
		多職種連携とチーム医療 チーム医療演習
その他	講師	原田 真之介 (37) ＜令和8年4月＞ 博士（人間科学）
		研究法基礎
その他	講師	高橋 愛輔 (31) ＜令和8年4月＞ 修士（生命理工学）
		病理学 神経内科学
その他	講師	春山 大輝 (31) ＜令和8年4月＞ 高度専門士（医療専門課程）
		内科学
その他	講師	横田 龍 (41) ＜令和8年4月＞ 修士（生命理工学）
		リハビリテーション概論
その他	講師	穂山 新 (48) ＜令和8年4月＞ 博士（社会学）
		社会学入門

教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
その他	准教授	春山 佳代 (46) ＜令和8年4月＞ 博士（医科学）
		多職種連携とチーム医療 チーム医療演習 ボランティア論
その他	講師	松本 麻里 (37) ＜令和8年4月＞ 博士（理工学）
		健康と薬
その他	講師	高橋 愛輔 (31) ＜令和8年4月＞ 修士（生命理工学）
		病理学 神経内科学
基 (主 専)	助教	春山 大輝 (31) ＜令和8年4月＞ 高度専門士（医療専門課程）
		内科学
その他	講師	穂山 新 (48) ＜令和8年4月＞ 博士（社会学）
		社会学入門
その他	講師	鈴木 和 (42) ＜令和8年4月＞ 修士（社会福祉学）
		暮らしのなかの憲法

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
その他	講師	鯨岡 アリソン (53) ＜令和8年4月＞ 修士（言語学）
		英語Ⅱ
その他	講師	佐川 俊輔 (43) ＜令和8年4月＞ 経済学修士
		暮らしのなかの憲法
その他	講師	辻本 昌弘 (54) ＜令和8年4月＞ 博士（文学）
		組織の中の人間-組織行動の心理学-
その他	講師	安井 清孝 (55) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）
		放射線と人体

教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
その他	講師	佐藤 篤 (44) ＜令和8年4月＞ 修士（社会福祉学）
		社会福祉学概論
その他	講師	鯨岡 アリソン (53) ＜令和8年4月＞ 修士（言語学）
		英語Ⅱ
その他	講師	古谷 大樹 (36) ＜令和8年4月＞ 博士（心理学）
		研究法基礎 組織の中の人間-組織行動の心理学-
その他	講師	安井 清孝 (55) ＜令和8年4月＞ 博士（医学）
		放射線と人体
その他	助教	Thomas Matthew Herbert (36) ＜令和8年4月＞ 理学療法博士
		英語A グローバルヘルスケア

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
その他	助教	五十嵐 裕 (48) ＜令和8年4月＞ 博士（スポーツ医学）
		統計のしくみ 1 統計のしくみ 2 健康の科学 健康・スポーツ 1 健康・スポーツ 2 生物統計学
その他	助教	相場 繁 (42) ＜令和8年4月＞ 修士（公衆衛生学）
		研究法基礎 疫学 公衆衛生学

教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
その他	助教	五十嵐 裕 (49) ＜令和8年4月＞ 博士（スポーツ医学）
		統計のしくみ 1 統計のしくみ 2 健康の科学 健康・スポーツ 1 健康・スポーツ 2 生物統計学
その他	講師	相場 繁 (42) ＜令和8年4月＞ 修士（公衆衛生学）
		研究法基礎 疫学 公衆衛生学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
その他	助教	八賀 好美 (62) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）
		医療英語
その他	助教	姜 惠彬 (42) ＜令和8年4月＞ 文学博士
		日本語A 日本語B 歴史と文化 文学の世界

教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
その他	講師	八賀 好美 (62) ＜令和8年4月＞ 修士（看護学）
		医療英語 国際保健論
その他	講師	姜 惠彬 (43) ＜令和8年4月＞ 文学博士
		日本語A 日本語B 歴史と文化 文学の世界

- (注)・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号（その2の1）（その2の2）（その2の3）に準じて作成してください。
 - ・ なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準等（令和4年10月1日施行前）に基づき、対象学部等を設置している場合、改正後大学設置基準等（令和4年10月1日施行）の適用以前については、改正前様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て（基幹教員（大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」）以外の教員（助手を除く）（改正後大学設置基準等の適用以前は兼任、兼任教員）を含む。）を黒字で記入してください。
 - ・ その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 記載は、設置認可時又は届出時における「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」に記載されている「教員区分」（改正後大学設置基準等の適用以前は「専任等区分」）の順に記入してください。
 - ・ 改正後大学設置基準等（令和4年10月1日施行）の適用以降については、主要授業科目にあたる「担当授業科目名」に下線を引いてください。（大学院、高等専門学校は除く）
 - ・ 教員がサバティカル等で不在の期間がある場合、その期間（年月日）を上段「学位」の下へ記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和7年度開設であれば令和6年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目名を記入してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和8年度】

- ・令和8年4月、靄山日出樹准教授、教授へ昇格。
- ・令和8年4月、横田龍兼任講師の就任辞退により、古川勉寛教授、阿部裕一教授に変更「リハビリテーション概論」。
- ・令和8年4月、「見学実習」の担当科目を追加（齋門良紀教授、阿部裕一教授、小林大介准教授、佐藤惇史講師、小林佳雄助教、武田裕吾助教、中辻晋太郎助教）。
- ・令和8年4月、「理学療法概論」の担当教員を追加（靄山日出樹教授）。
- ・令和8年4月、「災害からの復興」の担当教員を追加（今野裕樹講師、猪狩もとみ兼任教授、稲毛映子兼任准教授）。
- ・令和8年4月、鎌田真理子兼任教授の就任辞退により、田島明子兼任教授に変更「ジェンダー論」。
- ・令和8年4月、「多職種連携とチーム医療」の担当教員を追加（柴野健兼任教授、山本佳子兼任教授、永田隆之兼任准教授）。
- ・令和8年4月、鎌田真理子兼任教授の就任辞退により、坂本直道兼任教授、春山佳代兼任准教授に変更「ボランティア論」。
- ・令和8年4月、「健康と薬」の担当教員を追加（永田隆之兼任准教授、松本麻里兼任講師）。
- ・令和8年4月、吉田和樹兼任教授の就任辞退により、野崎裕之兼任准教授に変更「ナショナルヘルスケア（地域医療）」。
- ・令和8年4月、佐川俊輔兼任講師の就任辞退により、鈴木和兼任講師に変「暮らしのなかの憲法」。
- ・令和8年4月、鎌田真理子兼任教授の就任辞退により、佐藤篤兼任講師に変更「社会福祉学概論」。
- ・令和8年4月、「研究法基礎」の担当教員を追加（古谷大樹兼任講師）。
- ・令和8年4月、辻本 昌弘兼任講師の就任辞退により、古谷大樹兼任講師に変更「組織の中の人間-組織行動の心理学-」。
- ・令和8年4月、小池久恵兼任教授の就任辞退により、Thomas Matthew Herbert兼任助教に変更「英語A」。
- ・令和8年4月、「グローバルヘルスケア」の担当教員を追加（Thomas Matthew Herbert兼任助教）。
- ・令和8年4月、吉田和樹兼任教授の就任辞退により、八賀好美兼任講師に変更「国際保健論」。
- ・令和8年4月、「人体の構造Ⅰ」の担当教員を追加（中辻晋太郎助教）。
- ・令和8年4月、「人体の構造Ⅳ」の担当教員を追加（中辻晋太郎助教）。
- ・令和8年4月、「運動学」の担当教員を追加（中辻晋太郎助教）。
- ・令和8年4月、「関節運動測定演習」の担当教員を追加（中辻晋太郎助教）。

(注)・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

- ・ **認可で設置された学部等の基幹（専任）教員を変更する場合は**、当該基幹（専任）教員が授業を開始する前に必ず「基幹（専任）教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（A C教員審査）を受けてください。

原則としてA C教員審査を受けずに基幹（専任）教員として授業等を担当することは出来ません。

- なお、改正前大学設置基準等に基づいて認可を受けて設置された学部等が、改正後大学設置基準等への適用のため、大学が基幹教員の要件を満たすと判断した「専任教員」を「基幹教員」とする場合は、A C教員審査を受審する必要はない扱いとしています。（改正後大学設置基準等の適用にあたり、「基幹教員」の担当授業科目を追加する場合、「基幹教員」の担当授業科目の内容を変更するなど、A C教員審査の受審を求めている事由が発生する場合は、A C教員審査を受審する必要があります。）
- ・ A C教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。

なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。

- ・ 不要な年度（令和7年度開設であれば令和6年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 基幹教員数等

(注)・計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十一条第二項（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の基幹教員数について、「(2) -① 設置基準上の必要基幹教員数」及び「(2) -② 基幹教員等数【大学・高専】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2) -① 設置基準上の必要基幹教員数

完成年度時における 設置基準上の必要基 幹教員数（α）	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	うち、完成年度時における設置基準上の専ら当該学部等の教員研究に従事する必要基幹教員数（α）の4分の3以上
8 名	4 名	6 名

(注)・大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一、高等専門学校設置基準第六条第九項により算出される基幹教員数を記入してください。
・高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2) -② 基幹教員等数【大学・高専】

設置時の計画							現在（報告時）の状況						
教 授	准教授	講 師	助 教	計（A）	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計）（A'）	助手（A''）	教 授	准教授	講 師	助 教	計（B）	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計）（B'）	助手（B''）
4	2	2	4	12	12	0	5	1	2	6	14	14	0
(4)	(2)	(2)	(4)	(12)	(12)	(0)							
現在（報告時）の完成年度時の状況							現在（報告時）の完成年度時の計画						
教 授	准教授	講 師	助 教	計（C）	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計）（C'）	助手（C''）	教 授	准教授	講 師	助 教	計（D）	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計）（D'）	助手（D''）
4	2	2	4	12	12	0	4	2	2	4	12	12	0
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
高等専門学校の場合、「うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計）」欄は、「うち専ら当該高等専門学校の教育研究に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計）」として記入してください。
なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準（令和4年10月1日施行前）に基づき、対象学部等を設置している場合、「設置時の計画」欄は「設置時の計画（改正前大学設置基準等）」とした上で、「専任教員」及び「助手」の人数を記入してください。
また、「計（A）」の「うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計）（A'）」欄には「－」を記入してください。
・「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
・「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、
〔 〕内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
・「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
〔 〕内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) -③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

(注)・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて基幹教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて基幹教員として採用する教員数を記入してください。
・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) -④ 設置時の計画に対する教員充足率

【基幹教員全体】

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{12}{12} = \boxed{100} \%$$

【基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者】

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C'）}}{\text{設置時の計画（A'）}} = \frac{12}{12} = \boxed{100} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{0}{14} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C''）}}{\text{設置時の計画（A''）}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 基幹(専任)教員辞任等の理由

(3)-① 基幹(専任)教員の就任辞退(未就任)の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	基幹（専任）教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
		該当なし											
合 計（D）						後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注)・認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての基幹(専任)教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。

・「就任辞退(未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。

就任した後に辞任した教員は、以下「(3)-②基幹(専任)教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。

・昨年度の報告後から今年度の報告時まで基幹(専任)教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、

「就任辞退(未就任)の理由」に就任辞退の理由等及び()書きで報告年度を記入してください。

・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、

「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・基幹(専任)教員が担当する(している)場合は「①」

・基幹(専任)教員以外の教員(兼任兼任教員)が担当する(している)場合は「②」

・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3)-② 基幹(専任)教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	基幹（専任）教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
		該当なし											
合 計（F）						後任補充状況の集計（G）							
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注)・一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての基幹(専任)教員について、記入してください。

(学年進行中に基幹教員の要件を満たさなくなったことにより、基幹教員でなくなった教員についても記入してください。)

・昨年度の報告後から今年度の報告時まで基幹(専任)教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、

「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。

・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、

「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・基幹(専任)教員が担当する(している)場合は「①」

・基幹(専任)教員以外の教員(兼任兼任教員)が担当する(している)場合は「②」

・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3)-③ 上記(3)-①・(3)-②の合計

合計(D)+(F)						後任補充状況の集計(E)+(G)				
辞任等した教員数			担当科目数の合計(a)+(b)+(c)			①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3)-④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{0}{12} = 0\%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3)-⑤ 令和7年度報告書から、新たに辞任等した基幹(専任)教員等の状況

0 人

(注)・(3)-①、(3)-②で赤字で記載した基幹(専任)教員数の合計数を記載してください。

・令和8年度開設の学科等の場合、(D)+(F)と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した基幹（専任）教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	基 幹（専任）教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合 計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注)・ 定年により退職した全ての基幹（専任）教員について、記入してください。

- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで基幹（専任）教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 基幹（専任）教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 基幹（専任）教員以外の教員（兼任兼担教員）が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 基幹（専任）教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注)・ 上記（3）の基幹（専任）教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
届 出 時 (令和7年)	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える基幹教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教育研究実施組織における教員編制の将来構想を策定し、着実に実行すること。（総合医療学部看護学科、総合医療学部心理学科、総合医療学部作業療法学科） 【届出】 遵守事項	学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。健康医療科学部については、現在退職教員の補充について公募を検討しているところであるが、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。 (8) 履行中	学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、継続して教員補充について検討していく。中期的には健康医療科学部完成年度までに、教員組織編制の将来構想について検討していく。 (8)
届 出 時 (令和7年)	・薬学部薬学科の収容定員未充足の是正に努めること。 【届出】 遵守事項	薬剤師国家試験合格率の高さを強みに、福島県を始め東北地方と茨城県を中心に学生募集を行ってきたが、全国的な薬学志願者の減少などの外部要因に加え、本学薬学部のストレート卒業率が低いことなどにより、入学者数が年々減少した。そのため、令和8（2026）年3月に収容定員に係る学則変更の認可申請（学生募集の停止）を行った。 (8) 履行済	

設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和7年度)	改善策を講じているものの、引き続き多くの専任教員が辞任していることから、教育研究水準の維持向上等に配慮した安定的な教育組織の編成のため、示された改善策を着実に実施するとともに、詳細な原因分析及びより効果的な改善策について検討すること。(国際看護学部看護学科)	【A C】 指摘事項 (改善)	教育・研究水準の維持向上に配慮した安定的な教員組織の編成を実現するため「教学マネジメント」「内部質保証」「人事制度」など統合的な観点から教員組織を阻害する要因を分析し、改善策を検討している。 ①教員数および年齢構成の不均衡 教員の年齢構成の不均衡により「中堅層の空洞化」が問題。これによって若手教員の研究時間の確保や大学教員としての研鑽が難しく、研究・教育への意欲低下が懸念される。 ②教育・研究・大学業務の偏在化への対応 一部の教員への授業・委員会・学生対応への負荷が集中し、若手教員が研究時間を確保できない状況がある。とくに若手教員への管理業務等の負荷が過大となっている場合もあるため、優秀な人材が他大学に流出する虞がある。 ③研究力低下の構造的要因の対処 研究支援人材の不足による外部資金獲得力の低下が挙げられる。とくに若手の研究スタートアップ支援が弱い。このことは、研究時間の確保が制度的に担保されていない現状もあるので、そのための方策について体制の整備を進める。 ④採用・育成・評価制度の不整合 採用基準や昇任・昇格基準が分かりにくく、任期制教員のキャリアパスが不透明となっている。またFD/SD活動が形式的で研究評価が量的指標に偏りがちとなっている。若手教員の育成に関して一層の取り組みが必要。 ⑤組織的マネジメントの不足 教育研究組織と人事組織との連動が課題。これまで学部の要望ベースで採用が行われ戦略性が弱い。IRデータが意思決定に活用されていないなどの課題が挙げられる。 (8)	履行中	全学的な教育の内部質保証を「全学レベル」「部局レベル」「教員レベル」3つのレベルに分けて、各レベルに応じてPDCAサイクルを実行し、教員組織の質保証と連動させて実行している。 ①教員数および年齢構成の不均衡 年齢階層別の将来推計により退職予定者を考慮した教員補充計画を分析し、とくに主要科目の非常勤依存度が高いため、主要科目を担当する基幹(専任)教員の強化を実施している。 ②教育・研究・大学業務の偏在化への対応 教員1人あたりの授業コマ数や委員会業務の見える化を実施している。また教員ごとの教育・研究・社会貢献の実績バランスを把握し、教員間の業務量の均衡化を図るための分析を行い、個々の教員との定期的なヒアリングを実施し、要望事項や研究時間の確保に向けた取り組みを実施している。 ③研究力低下の構造的要因の対処 研究業績の経年変化、外部資金の獲得額の推移、若手・中堅・シニアの研究力の比較、研究支援体制の充実度(事務支援体制も含む)を把握し、外部資金獲得のためのFDの実施やシニア教員による研究計画書のチェックなどを企画し、研究力向上に努めている。 ④採用・育成・評価制度の不整合 教員採用基準の分析・評価および審査理由の分析。FD/SD参加率と教育改善との関連など、教員評価制度の妥当性(教育・研究・社会貢献の比率)について分析・改善を行っている。 ⑤組織的マネジメントの不足 全学的な教員配置方針と連動し、学部の教員需給予測やIRデータの意思決定への反映度、教育研究組織と人事組織の連携状況などについて分析し、教員組織の充実を図っている。 (8)

(注)・「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおり記載してください。

【令和7年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和7年度報告書の記載内容を転記し文末に「（7）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（8）」と記載してください。

【令和7年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和7年度報告書の記載内容を転記し文末に「（7）（8）」と記載してください。

【令和8年度から新たに調査対象となった学科等又は令和7年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（8）」と記載してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<総合医療学部 理学療法学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）
及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

FD・SD委員会

FD・SD委員会細則

平成19年4月1日
制 定

(趣旨)

第1条 この細則は、医療創生大学学則（昭和62年4月1日）第65条第2項及び医療創生大学大学院学則（平成4年4月1日）第10条の2に基づき設置された、FD・SD委員会（以下「委員会」という。）の運営について定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、本学教員の教育研究活動及び職員の教育研究等支援における資質向上・能力開発に関する次の事項を審議する。

- (1) 教育研究活動改善の方策に関する事項
- (2) 初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関する事項
- (3) FDに関する教員への各種コンサルティングに関する事項
- (4) 教員のFD活動の指針に関する冊子及びFD活動報告書の刊行
- (5) 授業評価の実施と結果に関する事項
- (6) 職員のSDに関する事項
- (7) その他FD・SDに関する事項

(委員会の構成及び任期)

第3条 委員会は次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 各学部を代表する教員
- (2) 事務局を代表する職員
- (3) その他学長が必要と認めた者
- 2 委員の人数は、学部長会の意見を聴いて学長が定める。
- 3 委員の任期は、学長が定める。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置く。

2 委員長は、学長が指名する。

(委員会の招集)

第5条 委員会は、委員長が招集し、主宰する。

(任務)

第6条 委員会は、審議の結果を学長に報告する。また、必要に応じて、教授会に報告する。

(雑則)

第7条 委員会は、必要と認める場合は、委員以外の出席を求め、意見を聴くことができる。また、学長が認めたときには、小委員会を設置することができる。

(事務)

第8条 委員会の事務は、教務学生課が当たる。

(雑則)

第9条 この細則に定めるもののほか必要な事項は、委員会の意見を聴き、学長が定める。

(改廃)

第10条 この細則の改廃は、委員会の議を経て、学長が行う。

附 則

この細則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則
この細則は、平成27年4月1日から施行する
附 則
この細則は、平成29年4月1日から施行する。
附 則
この細則は、平成30年4月1日から施行する。
附 則
この細則は、平成31年4月1日から施行する。
附 則
この細則は、令和2年4月1日から施行する。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

毎月1回実施（ただし、夏期休業期間は休会とする場合がある。また必要に応じて臨時に開催する場合がある。）

c 委員会の審議事項等

- (1) 教育研究活動改善の方策に関する事項
- (2) 初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関する事項
- (3) FDに関する教員への各種コンサルティングに関する事項
- (4) 教員のFD活動の指針に関する冊子及びFD活動報告書の刊行
- (5) 授業評価の実施と結果に関する事項
- (6) 職員のSDに関する事項
- (7) その他FD・SDに関する事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・FD・SD研修会の実施
- ・授業改善アンケートの実施
- ・授業参観制度の実施

b 実施方法

- ・FD・SD研修会の実施
委員会において企画立案し実施している。基本的な内容として、学外から講師を招聘し、午前の部を講演、午後の部をグループワークとして実施している。
- ・授業改善アンケートの実施
前期及び後期の授業終了時期に授業内容に関するアンケートを学生に対して実施している。
- ・授業参観制度の実施
教員相互による授業参観制度を導入しており、見直し・検討を行いながら、教育力の向上に努めている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・FD・SD研修会の実施
全学FD・SD研修会（令和7年度：3回）
 - ・第1回FD研修会「ハイブリッド授業の実施方法」：オンデマンド
 - ・第2回FD研修会「学修成果の可視化システム”あおい”の使い方」：参加率 99.3%
 - ・第3回FD研修会「電子教材の作り方、オンライン授業のデモンストレーション」：参加率 100%
 - ・第1回SD研修会「令和6年度医療創生大学の財務状況」：参加率 100%
- ・授業改善アンケートの実施
前期：230科目（アンケート実施科目数）
後期：227科目（アンケート実施科目数）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・FD・SD研修会は大学改革の喫緊の課題をテーマとし、高等教育の歴史、政策展開、国際化についてマクロに学ぶものから、授業の設計・方法、大学生の心理、大学職員のキャリア等、現場の状況に応じたテーマを取り上げている。令和7年度は学修成果の可視化、授業の電子化、ハイブリッド化をテーマとし、普段の授業改善に貢献している。

- ・授業改善アンケートについては、担当教員への結果のフィードバック、及び学内での公表をととして、教員自身並びに教員相互の授業改善を促す仕組みとして授業参観制度を導入し、検証を行っている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

授業終了時期に実施（前期は6月～8月、後期は11月～1月）。

b 教員や学生への公開状況、方法等

教員：担当科目の結果を個別にフィードバック、ホームページで公開

学生：C-Learning及びホームページで公開

(注)・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

該当なし

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

- ・申請時の教育課程を履行しつつ、将来に向けて検証が必要となる。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和7年5月 公表
- ・令和8年6月 公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開中
- ・大学ホームページ上に公開予定（令和8年6月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

- ・認証評価機関の一つである大学基準協会による評価を令和7年度に受審した結果、「基準2 内部質保証、基準10（1）大学運営、基準10（2）財務」に関して重大な問題が認められたことから大学基準に適合していない。」という判定であった。
- ・改めて3年程度後に大学基準協会による「追評価」を受審する予定である。

(注)・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和8年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。